場面かん黙のために集団不適応に陥った児童の事例

1．はじめに

この事例は，場面かん黙から集団不適応に陥った小学３年生Ｙ男に対して，担任が教育センターとの連携を図りながら指導援助をした結果，少しずつ集団に適応できるようになったものです。

2．問題の概要

＜本人，両親，担任との面接相談からとらえたＹ男の状態＞

本人

○　じっとして動かないなどの緊張状態がみられる。
○　視線を合わせず，問いかけに対しての反応は少ない。
○　自ら話しかけてくることはなく，問いかけに対しては，時折小声でぼつりと答える程度である。
○　ゲームに負けると表情が変わり，相手を拒否する頑固さがうかがえる。

担任

○　授業中，指名されても答えようとしない。
○　休み時間などには，数人の仲良しグループに混じって過ごすが，黙って後追いする程度である。
○　厳しさしか感じられない相手には，敏感に反応し，関係を拒否する。
○　他学年の児童との交流はない。

両親

○　入園時から，場面かん黙がみられる。
○　両親とも口数が少なく，明るく声をかけることや褒めることは少ない。
○　４歳まで祖母が養育の中心であり，手のかからない良い子で育つ。
○　近所に同年齢の子がいなく，就学後も一人遊びをしている。
○　母親へのあまえがみられ，親からの分離が十分でない。

3．診断

Ｙ男の場面かん黙の背景には，養育過程での両親からの消極的，拒否的なかかわりがあると思われます。また，Ｙ男の内向的，頑固な性格により，対人関係で生じる緊張感や不安感を素直に表現できず，沈黙という行動により解消してきたことが考えられます。さらに，交友関係の希薄さから，葛藤の処理や他者に対する共感の仕方などを